

アートなかすかべ人たち

かすかべの市民アートの集大成、春日部市美術展覧会

平成26(2014)年11月18～23日にかけて、ふれあいキューブで第9回春日部市美術展覧会(市展)が開催された。展覧会は全6部門あり、入選は、日本画8点、洋画133点、彫刻10点、工芸64点、書24点、写真46点。特に優秀な作品には市長賞、市議会議長賞、教育委員会教育長賞などが贈られた。会期中は過去最高となる延べ5,033人もの来場があり、アートへの関心の高さがうかがえた。洋画部門と工芸部門で市長賞を受賞したお二人にお話を伺った。



洋画部門市長賞 井上忠久さん
作品名『村の教会』

飲食店の店舗デザインを仕事にしている関係で、建物が好きです。20代の頃から描き始め、現在春日部では「長月会」で活動しています。受賞作は、フランスの田舎町ヴェズレーの教会を描いた作品です。感動の表現である絵画なので、キャンパスの中に空気感を描き込みたいと努力しています。今回初めて市展に出品し、大きな賞を受賞できたのでうれしく、また励みになりました。春日部市にはいっそう芸術・文化の発表の機会が増えることを期待しています。



工芸部門市長賞 赤坂郁男さん
作品名『銅板一枚物球体』

元々はダクトメーカーの製造部門で働いていました。58歳のときにダクトでオブジェを作り始めたのがアートに足を踏み入れたきっかけ。何度かダクトのオブジェを県展や市展に出し、5年前から銅板1枚で作る鍛金に挑戦しはじめました。ハンマーでトントン打ちながら形を整えるのですが、制作中は銅板との闘いだけの世界になる。それが作品づくりの楽しさです。人に見てもらおうと励みになります。これからも市民に愛され続ける市展であることを願っています。



次回の市展は、7月に詳細が発表される予定。

シャッターアートでまちを元気に!

「粕壁宿景観再生事業」の一環としてスタート

町火消の絵、歌舞伎役者、寺子屋の風景。春日部駅の東口には、江戸時代の浮世絵のような風情ある絵をシャッターに描いた「シャッターアート」が点在する。一点一点がまちや店の歴史をユニークに表し、見るものを飽きさせない。

このシャッターアートは、春日部駅東口商店会連合会が、行政の助成を受けて、2011年に「粕壁宿景観再生事業」の一環としてスタートさせた。当時、連合会の会長だった市川弘さんに事業について伺った。

「そもそも東口周辺は、江戸時代の『日光道中』の宿場町。春日部の商業発祥の地といっ

てもいい。地域力アップのため、元々ある地域の特徴を活かしたかったんです」

シャッターアートでまちが活性化すると嬉しい

発起人の一人として、市川さんは店舗を一軒一軒回って説明し、事業への理解を求めた。各店舗の経済的負担もあるため、すぐには賛同を得られなかったものの、最初に完成した古利根公園橋の公衆トイレの壁画を目にすると「まちのためならやってみよう」と賛同する店が徐々に増え、現在では30を超えた。

「今は観光ボランティアの方が、まち歩きツアーの中でシャッターアートを紹介してくれています。また、この取り組みがきっかけで、代替わりした店主との交流が生まれました。子どもたちに人気の『街キャラカード』も若い店主からのアイデアで生まれたものです。今後もシャッターアートが、まちの活性化に役立つと嬉しいです」



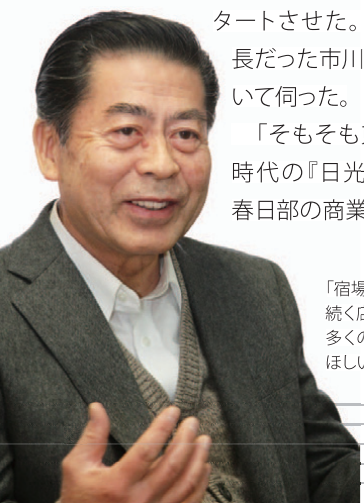
市川寝具

市川さんの店は、初代の市川寅之助の名前からイメージし、トラの絵をシャッターアートに取り入れた。



山田桐箆筒製作所

指物師の山田長松[天明2(1782)年生まれ]が創業。江戸時代の箆筒職人の作業風景と指物道具を忠実に再現した絵柄。



「宿場町の時代から100年以上続く店が今も多く残っている。多くの人に歴史ある街を見てほしいですね」と市川さん。